

国際会議「6th European Congress on Radiation Protection」での 口頭発表



目で見る
海外論文発表

衣川 哲弘*

A oral presentation at
"6th European Congress on Radiation Protection"

Key Words : Radiation protection, multidisciplinary, in-person meeting

<参加会議名>

6th European Congress on Radiation Protection

<開催場所> ブダペスト、ハンガリー

<渡航期間> 2022/5/28-6/4

<発表タイトル>

Analysis of radiation effects on cancer using a mathematical model

本会議は International Radiation Protection Association (IRPA) のヨーロッパ会議であり、放射線防護に関係する様々な関連分野(科学、医学、工学、技術、および法規制等)からの参加者がいる、分野横断的な会議である。

ハンガリーに到着してまず、誰もマスクをしていないことに驚いた。これは、日本ではほぼ全員がマスクをしている事とは対照的だった。体感的には、ハンガリーでマスクを着用している人の割合は、(出発前時点の)日本でマスクを着用していない人のそれと同程度、あるいはそれより少ないぐらいだったと思う。

今回私は、がんに対する放射線影響を対象として、それを解析するために構築した数理モデル、およびマウス実験データを本モデルで解析した結果について口頭発表した。英語で行う対面での発表は初めてでとても緊張したが、セッションに参加する皆様の

助けもあり、無事に発表を終了することが出来た。私の発表はセッションの最後だったこともあり、直後のコーヒープレイクの時間でも多く議論、および激励の言葉を頂くことが出来た。このようなセッション外での交流が出来ることも対面開催ならではのと感じた。同時に、学会・会議を対面で開催することの重要性を改めて強く認識した。

コーヒープレイクやバンケットの時間にも多くの他研究者と交流を持つことが出来たが、特に自身の専門分野と異なる研究者と交流出来た点はとても良かったと思う。これも、セッション外の交流が容易な対面の開催だからこそ出来たことである。これらの時間には研究に関する話題のみではなく、何気ない雑談を通してもまた、多種多様な国の研究者と交流を持つことが出来た。これらの交流を通して自身の見聞を深めることが出来たと思う。同時に、英語でのコミュニケーションのとても良い練習となった。

本国際会議への対面参加は私にとって本当に良い経験となった。このような貴重な機会に対してご支援賜りました生産技術振興協会に深くお礼を申し上げます。



* Tetsuhiro KINUGAWA

1996年2月生まれ
大阪大学大学院 工学研究科 環境・エネルギー工学専攻 博士前期課程修了
(2020年)

現在、大阪大学大学院 工学研究科
環境エネルギー工学専攻 博士後期課程
3年 修士(工学)

専門/数理モデル、放射線生体影響

TEL : 06-6105-6930

E-mail : kinugawa@qb.see.eng.osaka-u.ac.jp



発表の様子



Welcome receptionの様子。壇上では開催国ハンガリーの伝統舞踊を披露してくれている。



コーヒープレイクの様子。多くの研究者が活発に交流している。



バンケット後のダンスパーティーの様子